

8月号

地域おこし協力隊しんぶん

今月の担当は
智里西地区です!うえまつ しほ
植松 史歩

◇ 生きるということ

広報に登場するの残すところあと1回となりました。地域おこし協力隊として私が活動できるのもわずかということで、今回は活動以外もひっくるめてお話しします。今年度から智里西公民館の主事を務めさせていただいています。去る7月14日、園原が由来の「木賊山」の山鉾を見学・学習するために、公民館事業として京都の祇園祭に行ってきました。この日は今年一番の暑さでした。「木賊山」提灯の文字を見た時はすごうれしく、私は以前京都市の児童館で働いており、祇園祭は教え子が山鉾に乗ることがあったほど身近な祭でした。自分がいた場所と今いる場所がなんだかつながっているような気がしました。誰か知り合いに会うかなと話していたら、教え子の保護者にばったりお会いして思わず手を合わせあったり、さらに、錦市場では元協力隊の長谷川さんの実家で作っている海苔を発見しました。阿智村の地域の方と、京都という自分が過ごしてきた土地と一緒にいることが不思議で、うれしくて、「生きる」ということはこういうことなのかなと思いました。

私は中学校一年生の時に校区が変わる小さな引っ越しをしました。小学校の友だちはすごく大好きで、自分というものがいつも素直に表現できる場でした。しかし、引っ越したことでそのつながりも真っ白になり、一から作っていかないといけなくなり、同じように関西から違う場所に出た時にも同じような挫折?があり、ずっと同じ場所で大好きな人たちと一緒にいる方が、自分にとってよかったのではとそうした挫折をするたびに思っていました。ですが、外の世界に出なければ、人の痛みを知ることや自分の視野も生きている空間もかなり限られたものになっていた気がします。そして、自分が外に出ても大事に思っている芯が変わらなければ、色んな事がつながっていくのだと、人生半ば今思っています。

◇ おきくの児童館を通して

現在、智里西公民館で「おきくのじどうかん」、東山道・園原ビジターセンター『は>き木館』で「おきくの出前児童館」を実施しています。先日は>き木館のワークショップでは、協力隊になったばかりの頃に住んでいた伍和地区の親子さんが来てくださっており、旦那さんが「しほさんのやつやったら行っといで!」と送り出してくださったというお話を聞いたり、広報を聞いてはぎれを分けて下さった方もおられました。またワークショップをきっかけに、友人がは>き木館で新たな取り組みを始めたたり、協力隊としての私の役割は、自分の生きる姿を伝えていくこと、誰かと誰かをつなげていく仕事なのかなと思っています。

◇ 今年でラストカレンダー

毎年作成してきた「阿智村カレンダー」も今回作成するもので、一旦終了となります。ということで、今年は万年カレンダーを作ります! カレンダー制作は途切れますが、皆さんの手元にずっと残るように大事に作りたと思います。

◇ 公民館シネマみんなで見ましょう!

9月1日に中央公民館で「奇跡」という映画が上映されます。子どもたちに大事にしてほしいものが詰まった作品です。「生きるということ」もどこかに登場しますよ。

ぜひ、みんなで気持ちを共有しましょう。

来月の担当は
浪合地区です!